

“暮らすような旅”ができる町で長期滞在型観光目指す

釧路管内・鶴居村 NPO法人美しい村・鶴居村観光協会

観光ガイドを1冊読んで、旅行会社のパッケージツアーでオスメスポットを回るだけの従来の発地型観光では、その町の真の魅力に触れるのは難しいだろう。本当の魅力を体感するには、着地（到着する）側が地域ならではのプログラムを企画し、現地集合、現地解散する着地型観光、あるいはその地域に長期滞在が欠かせない。それらの形態の観光によって鶴居村の観光産業の振興を図っているのがNPO法人美しい村・鶴居村観光協会だ（以下観光協会）。名前にある「美しい村」は、失ったら二度と取り戻せない日本の農山村の景観・文化を守る活動を行っている組織、「日本で最も美しい村」連合に加盟していることから付けられた。

酪農が基幹産業の鶴居村は、釧路管内の真ん中に位置する人口約2600人の小さな村。しかし、釧路湿原や国の天然記念物にも指定されているタンチョウが数多く生息しているなど、観光資源に恵まれ、タンチョウの美しい姿を撮影するため世界中から数多くのカメラマンが訪れる。

観光協会の前身は、鶴居村役場が事務局として1987年（昭和62年）から運営していた鶴居村観光協会だ。鶴居村の主な4つのイベント——7月のつるい納涼まつり、8月の鶴居ふるさと仮装盆踊り・花火大会、9月の鶴居村ふるさとまつり、2月のタンチョウフェスティバルの開催がメインの仕事だった。

NPO法人の設立は2012年（平成24年）9月27日。その理由について「当時は一般社団法人

人や株式会社にする案もあがっていたが、地域が自発的にPRをしていきたいという思いと社会的な立場が明確になるようにどうしてもNPOにしたかった」と事務局長を務める服部政人さん。

服部さんは、大阪府出身で妻の佐知子さんが道産子だったことから30年ほど前に鶴居村に移住。大阪時代から、酪農に興味があったという服部さんは、グリーンツーリズムによって地域おこしをしたいと、99年にファームレストランやゲストハウスなどを運営する「ファームレストラン ハートンツリー」をオープンした。12年にNPOの観光協会発足とともに事務局長を務めるようになり、それ以降はハートンツリーの運営はもっぱら佐知子さんが務め、14年の株式会社化に伴い佐知子さんが代表を務めるようになった。



9月に開催される鶴居村ふるさとまつり

現在、観光協会の役員は鶴居村や釧路市に在住の理事7人、幹事2人の9人。職員は服部さん1人だけ。理事は大半が30代と若い世代で、建設会社役員、酪農家、商工会の青年部長と多彩。理

事長の和田正宏さんは温泉宿「HOTEL TAIL TO」のオーナーだ。意思疎通を徹底するため、1ヵ月に1回、年12回は理事7人で定例の理事会を行っている。法人会員は正会員が企業・団体18、個人17、賛助会員が企業・団体21、個人が10。

■ 「人との交流が旅には欠かせない」

具体的な活動として、2017年度、2018年度の2ヵ年で農林水産省の農泊推進事業の認定を受けたモニターツアーの実施がある。この事業は農村地域に宿泊しながら地域の人々との交流を図る農泊を推進するもので、認定された全国の自治体でも行われている。鶴居村のモニターツアーではチーズづくり体験や湿原散策、釣りやサイクリングなどを体験してもらい、インバウンド（訪日外国人）を含めた観光客を農村地域に呼び込むために何が必要かといったことを2年間で検証するものだ。

この事業では、インバウンドの意見を聞くため前述のハートンツリーで働く外国人にもアンケート調査を行っている。ハートンツリーは、旅行者が有機農家で手伝いをする代わりに宿泊場所や食事を提供する「WWOOF(ウーフ)」というシステムにホスト登録しており、世界各地から旅行者を受け入れている。オープンから18年で延べ750人の旅行者がここで働いた実績があり、生の声を聞くことができるからだ。

活動の中で反響があったのは、長期滞在を進める目的で行った長期滞在型観光モニターツアー。村内にある宿泊施設に5泊以上泊まると、村内で

使える商品券やガイドマップがもらえるというもので、2016年度は7月から12月までの6ヵ月間実施し、滞在人数55人、平均滞在日数11日の延べ宿泊数は600日だった。モニターツアーに参加する長期滞在の観光客は着々と増え、5泊以上の延べ宿泊数は3年間で700泊を超え、リピート率も高く、最近では、タイなどアジアを中心とした地域の参加もあるという。

インバウンド対策の一環で、東京や釧路の大学の留学生を夏と冬に2泊3日滞在してもらおう留学生モニターツアーも3年間実施。これは、留学生にレストランや宿泊施設に様々な提案をしてもらうのが目的。「外国人はどう感じているかということも直接日本語で話してもらえし、外国人や外国語が苦手な人もいますので、『そんなことまで気にしなくて大丈夫ですよ』などと言ってもらえると自信にもなります。留学生モニターツアーの参加者たちとは今でも付き合いがあり、お手伝いしてもらおうなど彼らの力は大きい」と服部さん。札幌在住でタイ人のブーワナット・スパーブクンさんは、モニターツアーの参加者の一人で、今でも家族ぐるみの付き合いがある。スパーブクンさんは、フェイスブックとブログを使ってタイ語で鶴居村を含めた北海道の魅力を発信しており、その力もあってタイで鶴居村は有名だという。

このほか、地域循環を目的に「鶴居村温泉パスポート」を発行。これは1500円で村内3カ所の温泉の日帰り入浴ができ、500円のクーポン券とミニタオルや手ぬぐいなどのプレゼントがもらえるというもので、鶴居村商工会と連携、今年で4年目になる。



NPO法人美しい村・鶴居村観光協会

他の団体との連携も積極的で、北海道の地域活性化を目的とした札幌市のはまなす財団とはDMO(地元と連携しながら観光地域を作り出す法人)についての研究会で情報交換をしている。



丹頂鶴を見わたせる音羽橋を見学する留学生モニターツアー

また、長期滞在者や移住者を釧路市へ受け入れる目的で釧路市役所が事務局となって宿泊施設や観光団体と連携して設立された「くしろ長期滞在ビジネス研究会」にも参加している。

さらに、新たな地域連携事業として、釧路の8市町村とともに自転車による観光推進「くしろサイクルツーリズム」にも参加、釧路～鶴居村～弟子屈町を活用したモニターコースの構築に向け取り組んでいる。2016年からは事務局が鶴居村観光協会となり、台湾やタイなどへプロモーション活動も行っている。農泊事業の一環として電動アシスト自転車を10台導入、それを利用した検証モニターを年3回ほど実施、こちらも評判だ。

外国人誘致事業として、サイクリングツーリズムと共に取り組んでいるのが、滞留時間の増加を目指した市街地や各地域を活用したフットパス

(街の風景を楽しみながら歩くことができる小道)事業で、2016年は6コース新設した。

「以前の構想ではコース名や距離、スタート地点やゴール地点などに番号や矢印を使って表示する案があったが、こうした表示では、『こっちに行く』という感じになって、自由さが無い。長期滞在客やリピート客にとって窮屈に感じてしまう。ウォーキングとかサイクリングに適している道というイメージで訴えるだけでいいのではと以前の構想はなくなりました」(服部さん)

コースについては、QRコードで温泉やレストランなどの情報を見られるような地図も作成するなどして2年ほどで対応していきたいという。

釧路川流域の町村である弟子屈町、標茶町、鶴居村、釧路町という4町村で連携を組んだ町村観光の連携事業「釧路川流域町村観光推進協議会」にも参加している。

また、観光パンフレットについて、英語版をネットで配信する案や、鶴居村のトータル観光のアプリの配信も考えている。「すべてをデジタル化する考えはありません。人が交流するのに欠かせないのはアナログ環境です。とりわけ地域の人と交流することは旅にはかせません。景観や体験、食だけではリピート客は来ませんが、人との交流があれば景観や体験、食も一段と輝きます。デジタルとアナログをバランス良く観光に取り入れることが大切」と服部さんは話す。

こうした長期滞在型観光と交流型インバウンド事業が評価され、北海道観光推進機構による観光



奨励賞を受賞したほか、農林水産省「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」コンクールで、全国760件の応募の中から、30件の優良事例として選定され、首相官邸で行われた選定証書授賞式にも出席するなど着々と成果をあげている。



阿寒連峰を見渡せるフットパスコース

■ 熱心な観光客を移住につなげる

資金は、鶴居村からの補助金やはまなす財団、北海道観光振興機構などからの助成金がメインだが、今後は地域を守る観光活動に賛同したいという人々からの寄付を募るということも検討している。

現在、鶴居村振興公社でワインを製造・販売しているが、ワインだけではなく、鶴居村オリジナルのビール造りにも取り組みたいという。「ここでしか味わえない食と共に、ビールがあって、バルのようなお店が何軒かあったら、楽しみが何倍にもなる。そうするとここで店を開いてみようという人や移住してくる若者も増えてくるでしょう。そんな面白いことが集まり出すと歯車が回っていくのでは」と服部さん。

NPO法人美しい村・鶴居村観光協会

最終的には熱心な観光客を移住につなげ、その移住者たちに観光のサポートもしてもらうのが協会の目標だ。

「鶴見台や音羽橋など観光スポットは素晴らしいけれど、丘から見た虹がきれいとか、農道から見た阿寒の山がきれいとか、観光名所ではないところにも魅力がある。我々の長期滞在型観光のキャッチフレーズ『暮らすように旅をする』を実践することでわかる。長期滞在して村を知ってほしいし、春夏秋冬4シーズンを楽しめるような場所づくりをしていきたい」と服部さんは語る。鶴居村を“暮らすように旅”する観光客が増えれば、誰も気づかなかった村の新たな魅力に気づくはずだ。

■ 連絡先

〒085-1203 阿寒郡鶴居村鶴居西1丁目1番地
(鶴居村役場産業課内)

NPO法人美しい村・鶴居村観光協会
理事長 和田 正宏(わだ まさひろ)
事務局長 服部 政人(はっとり まさと)

TEL : 0154-64-2020
FAX : 0154-64-2577
E-mail : waku2tsurui@gmail.com
URL : <http://tsurui-kanko.com/>
Facebook : www.facebook.com/tsurukanko